



TRICK STAR



FIM Asia Road Racing Championship 2016

ROUND1 Johor Circuit , Malaysia

参戦報告書

- エントリー名 : TRICK STAR Racing
- 監督 : 鶴田 竜二
- ライダー/ゼッケン : 山本剛大(#1)
田中 歩(#82)
- 開催日/サーキット : 2016年3月31日(木)~4月2日(土)
Johor Circuit (Johor MALAYSIA)
- マシン : カワサキNinja250
- 結果 : 山本剛大 レース1 5位 レース2 7位
田中 歩 レース1 リタイア レース2 9位

2016アジアロードレースチャンピオンシップ(ARRC)、第1戦はマレーシア・ジョホールサーキットで開催された。今回は木曜日から公式練習が行われ3日間のレースウィークとなる。

TRICK STAR Racing のライダー・スタッフはレースウィーク前週に開催されたPre SEASON TESTからマレーシアに滞在し、レースを迎える。



【4月1日(金) 公式予選】

Qualify 9:50~10:20 天候:晴れ コース:ドライ

練習から予選、決勝レース1、レース2のタイヤ使用本数が3セットと決められていて、ここジョホールサーキットは路面が荒くタイヤの消耗が著しく酷く、我々は作戦としてタイヤを温存すべく、山本選手は練習で使用したタイヤを予選まで引っ張りタイムアタックをしました。

昨年からだが他車の山本選手のマークが厳しく彼に追走しようとしたところで待ち構えているのだ。そんな状況のなか1分45秒4というタイムで6番手となった。田中歩選手は今年からのマシンに少しでも慣れる為、練習走行は目一杯走り込んだ。その為、山本選手とは違い新品タイヤをどうしても予選で使用しなくてはならず、そうすると決勝レース1をそのタイヤを使用しなくてはならない。その為消耗度合いを極力減らす為に最初の5周のみのタイムアタックと決めて予選に挑み、計測4周目で自身のベストタイムの1分45秒5を出して9番タイムとなった。

しかしこのクラスは単独でタイムを出すより、スリップストリームを使い他車の後ろに着き、風を避けて走った方が簡単にタイムを短縮できる為、それを故意にする選手が多く、最後までそれに明け暮れていた選手達がタイヤを温存して我々よりも良いタイムをマークした。これはある程度想定内の事であった。しかしこの行為は危険な為に今年からペナルティーの対象となる事が決まった。

1周を2分以上かけてゆっくり走ったライダーに対し予選タイムに15秒加算されたタイムがレース1だけのグリッドとされる事になった。驚いた事に28台中21台がペナルティーを受ける事になった。

しかし、山本は自分に着いてくる他車に対してそれを避ける為にゆっくり走ってしまったのでそれが2分を超えてしまい、彼もペナルティーの対象になってしまった。

その結果レース1のスタートグリッドは山本選手の場合、本来は6番グリッドだが、これに対してペナルティー15秒が加算され、12番グリッドとなった。

田中選手は本来9番グリッドだが3番グリッドからスタートする事となった。

【4月1日(金) 決勝レース1】

Final 1 14:40～ 12LAP

天候:晴れ コース:ドライ

スタートが切られ1周目、田中選手7番手で通過、山本選手は10番手で通過した。レース序盤はヤマハ勢がトップグループを形成する形で進んだ。山本選手は毎周順位を上げ周回を重ねた。中盤に差し掛かり山本選手は6位集団を走っていた田中選手に追いつき順位を入れ替えた。田中選手も山本選手を追走しトップグループに迫る。尚も山本選手の追い上げは続き6周目には3位までポジションアップしてきた。7周目のバックストレートで遂にトップに立つ事に成功した。しかし、今回のタイYAMAHAの3台のマシンは速く、すぐに抜き返されてしまった。8周目にまたバックストレートでトップを奪い返す山本選手。激しいトップグループの攻防が続き、9台のマシンが連なってレースは白熱していった。

毎周の様に順位を入れ替えるトップグループの中に田中選手もしっかり着けている。残り2周となった10周目高速コーナーで山本選手がトップに立ち、それに続く様に田中選手が4番手に上がってきた。しかし、次の瞬間シケインの進入でその田中選手のイン側を1台のマシンがオーバースピードによるコントロールを失った形で飛び込み田中選手にぶつかってしまった。その衝撃で田中選手の乗るマシンはフロントを掬われる形で即転倒に至ってしまった。ここまでの田中選手の健闘も虚しくリタイヤとなる。

レースは最終ラップに突入した。終盤にきて昨年のライバルだったゼッケン24番アピワット選手との一騎打ちの様相になっていた。

バックストレートで再び山本選手がトップに立った。そのままトップをキープしようと必死に逃げようとするが、24号車が今度は下り右コーナー入り口で強引にイン側に飛び込んできた。山本選手、なんとか抜かせまいとアウト側に並んで並走するが、次の瞬間、はじき出される様なラインを取られ逆に山本選手のマシンは失速してしまいその後ろを走っていた同じチームの2台にまで先行されてしまった。山本選手は直ぐさまリカバリーしようと追走するも残りコーナーはあと3つ。シケインコーナー入り口の右コーナーで3位の選手に左アウト側からならび進入し、左に切り返して次の前を行くマシンのイン側に飛び込もうとした。しかし僅かに及ばずラインを塞がれ抜き切るところまでいかない。逆に失速してしまい、最終コーナー手前で後続を走っていた選手にまで抜かれた。ゴールラインまで必死に追いかけほぼ4位で同着ゴール。しかし写真判定で5位となってしまった。

【4月2日(土) 決勝レース2】

Final 2 14:40～ 12LAP

天候:晴れ コース:ドライ

今回はペナルティ対象となったレース1とは違い6番グリットから山本選手がスタートし、9番グリットから田中選手がスタートを切った。

共にまずまずのスタートを切りオープニングラップを山本選手7番手、田中選手9番手で通過。
2周目も同じ順位で通過、、、3周目も同じ順位で通過、、、

レース1の展開ならバックストレートで前車を抜き去り直ぐポジションアップをするのだが、一向に抜く気配をみせない。むしろそれどころかコーナー立ち上がりでやや遅れている。
なんとかストレートエンドで追いつくも抜き切るところまで行かない。それは1号車山本選手と82号車の田中選手もそうだった。

中盤から終盤にかけて山本選手は僅かに1つ前をいくマシンを抜き6番手にポジションを上げて来た。田中選手は9番手争いにつかまり、トップグループから少し離されてしまった。

2人のマシンは明らかにレース1の様な加速が出来ないことによる、苦戦がしいられていた。
そのままの小康状態が続き遂に最終ラップに突入した。

ここにきてなんとか前をいく選手との間隔を詰めて来た山本選手、加速が鈍っている分コーナー進入スピードを上げポジションを上げてきた。5番手に順位を上げ、高速コーナー入り口で今度は4番手に上がった。トップグループ3台のタイYAMAHA勢にしっかり喰らいついている。山本選手、ラインを左右に振って抜くタイミングを伺っているがなかなかそこまで詰め切れない。

いよいよレース1の様にシケインの進入に差し掛った。今度はしっかりアウト側から並び、ラインをクロスして切り返したイン側に飛び込んだ。完全には抜き切るところまではいかずしばらく3位の選手と並走する形になった。しかし思う様に加速しない。

そうこうしている内、加速の劣る1号車の鼻先を相手のマシンにかすめられ失速を余儀なくされた。失速したその直後、5位に着けていた選手にも抜かれしかもそのマシンに行く手をはばまれゴールラインまでにもう1台にも抜かれ7位まで順位を下げる形でのゴールになった。
田中選手は9番手争いが最終ラップまで続き、9位でゴールした。

【ライダー 山本 剛大 選手 コメント】**予選 6位**

レース1で新品タイヤを使えるようにするためにプラクティスで温存した中古タイヤで予選アタックをする。他の選手のマークがきつくなかなかタイムアタックをする機会を得ることができず、結局スリップストリームを利用するのを諦め単独でタイムアタックをする。マシンの感触も悪くなく単独タイムアタックも上手くいき単独でのベストタイムを記録するもスリップを使ってタイムアタックしたライバルも多く6番手に終わる。予選後、マークを外すために行ったスロー走行行為にペナルティが与えられてレース1は12番グリッドスタート、レース2はそのままの6番グリッドスタートとなる。

Race1 5位

ペナルティにより12番グリッドからのスタートでしたが、集団のペースも悪かったため焦らずに徐々に順位を上げていき、残り半分くらいのところでトップまで追いつきました。トップに追いついた後は、集団の台数を減らしていくために、あまりバトルは仕掛けずにトップ3~4台で後続を引き離していくが、良い感じで引き離し始めたところに、他の選手のラフプレーがきっかけにトップ集団のペースが落ちてしまい、集団がまた大きく戻ってしまう。

レース後半、タイヤマハ3人を相手にバトルをしていたが微妙なチームプレーに抑えられてしまい、失速したところもう一台に間に入れてしまい5位でチェッカーを受ける。

Race2 7位

レース1はペナルティがあり12番グリッドスタートでしたが、今回は本来の6番手からスタートする。レースがスタートしてヤマハ勢に囲まれながらのレースになりましたが、状況はレース1以上に厳しく加速で離され、Ninja250の最大の特徴でもある5、6速の伸びもなんとかついていける程度。ついていくのが精一杯な状況で6番手辺りから上がって行けず何もできない展開でした。しかし最終ラップに猛アタックをしかけタイヤマハの3台の後ろに何とかつける事が出来ましたが、手も足も出せないまま唯一仕掛けることの出来るシケインの切り替えしで抜きにかかりましたが抜ききれず失速させてしまい、結果7位まで順位を落としてしまいました。

今回のレースウィークは、テストからレースまで走行時間も多く、とても長いレースウィークでした。テストから予選までの状況はかなり良く、優勝を狙える位置でした。しかしレースではレース1、レース2共にエンジンのパワー不足でレースの主導権を握ることが出来ずに、やられっぱなしのレースになってしまいました。今回のレースは完敗です。次回のレースはライバルチームのホームグラウンドとなるタイラウンド。次戦も厳しい戦いになると思いますが、ライダー、マシン共に大幅に進化させシリーズの流れを引き寄せる事が出来るよう頑張ります。

最後に、チーム、スポンサー様、ファンの皆様、応援ありがとうございました。



【ライダー 田中 歩 選手 コメント】

予選 9位

レースウィーク前週に予選では決勝レース1と同じタイヤを使用する為、2周のみのタイムアタックを行いました。アタック後、ピットに戻った時点では6番手でしたが後半タイムアップしたライダーがいて9番手で予選終了となりました。

Race1 転倒・リタイヤ

レース1は予選終了後にスロー走行によりペナルティを受けたライダーが多数いて3番手フロントロースタートでした。スタートは失敗してしまい更に1コーナー進入で接触してしまい大幅に順位を落としてしまいました。しかし序盤からトップ集団についていき終盤には仕掛けて行く事ができ4、5番手まで順位を上げました。ラスト2周のシケイン進入で自分がバイクを寝かし始めている所に、明らかにオーバースピードでインに入って来たライダーに接触され転倒してしまいリタイヤとなってしまいました。

Race2 9位

レース2は9番グリッド3列目スタート。
トップグループについてはいけるものについていくのに精一杯で周回を重ねていきました。ラスト5周位で後ろにいたライダーと少し争ってしまっているうちにトップグループと離れてしまいそのまま追いつけずゴールとなりました。

今回のレースは他メーカーと比べ遅い部分があっさり出てしまいとても苦しいレースになりました。自分への課題もあるので次戦ではクリア出来るようにしたいです。最後にチーム、ご支援頂いているスポンサー様はじめ、応援して下さいの方々有難うございました。次戦では結果を残せるよう頑張ります。





TRICK STAR

【監督 鶴田竜二 コメント】

シーズンを占う上でも重要な初戦でしたが、とても信じられない結果となり正直驚いています。レースを振り返ると、レース1は内容自体はスタート順位からすると順当なレース展開が出来ていたのではないかと思います。

しかし残り2周で田中選手が他車にぶつけられ転倒してしまい、ここからトップを走る山本選手に対し相手3台のタイYAMAHAのマシンが昨年よりかなりポテンシャルアップしていて厳しいレース展開となってしまった。バックストレートの最高速では若干優位性がありトップには立てるのですが、コーナー立ち上がり加速では追いつかれてしまい、後半セクションでは前に入る事が容易ではなくなっていました。

最後のチャンスとしてシケインで並びかけるのですが抜き切れなく、逆に失速して5位になってしまったのはチームとしては痛い結果となってしまいました。

レース2はそんな結果を踏まえ相手3台に対し田中選手と2台でその牙城を崩すつもりで挑んだのですが、何故かレース1よりもエンジンが2台とも精彩を欠きトップグループに着いて行くのがやっとなんかという展開でした。そんな状況でも山本選手は最終ラップ3位に並びかけたのは彼の頑張りが素晴らしかったと言えます。結果として両レースとも表彰台をかけて抜き切れず失速してしまい順位を落とす形になりましたが、これは仕方がないです。おそらく山本選手だからこそあそこまで出来たのであり、レーサーとしての本質として1つでも上を、ましては表彰台を掴みにいくのは当たり前なので、むしろ彼の健闘を讃えたいと思います。ディフェンディングチャンピオンらしい走りでした。

もう一人の田中選手も良く健闘してくれました。

レース1では4位に着けていたラスト2周での他車による強引な行為によるクラッシュはとても危険でした。

そこまで虎視眈々と表彰台圏内を狙えていただけにリタイヤはとても残念でした。

レース2はそれを挽回する為に挑んだのですが、エンジンの不調の為にトップグループの中でレースが出来ずこちらでも残念な結果となってしまいました。次に大いに期待したいです。

我々としては冬の間今年レギュレーションの改正により、準備を進めてまいりました。大きなところでラムエアシステム導入の変更点にあたります。

その取り組みにはそれなりの手応えも感じポテンシャルは確実に上がっていました。その証拠に鈴鹿では昨年の記録タイムを大きく上回ることができていました。

しかし、我々の開発よりライバルチームのポテンシャルアップの方が今回は明らか上回った結果となりました。

今回のレースの結果をチームとして真摯に検証し、早急に抜本的なポテンシャルアップを押し進め、次のタイラウンドには雪辱をはらしたいと思います。

最後になりましたが、いつも私達チームを支えて頂いているスポンサー様、熱い応援を頂いているファンの皆様、ご協力を頂いている関係者様、チームスタッフに感謝しております。

私達が情熱を注ぎレース続けられるのも皆様の御陰です。

ありがとうございました。

チャレンジは続きますので引き続き応援よろしくお願い致します。